

「国内生薬調達担当者情報交換会」初めて開催 ～薬産協～

2021年5月21日(金)、薬用作物産地支援協議会(薬産協)の主催により「国内生薬調達担当者情報交換会」が開催された。

日漢協が策定している「漢方の将来ビジョン2040」では、生薬の国内生産量を2015年度に比べて2030年度に約1.5倍、2040年度に約3倍まで引き上げることを目指している。

薬産協が設立されてから初めての試みとなるこの会は、

国内で生薬の調達を担当している会員会社の方々に意見交換や情報共有などを行うことを目的に開催された。当日は会員会社9社から29名の調達担当者がオンラインで参加したほか、農林水産省で薬用作物の生産拡大に向けた補助事業を担当している生産局から三奈木課長補佐、小林係長の2名など、計37名が参加した。



会場・事務局



農水省生産局

小林係長

三奈木課長補佐

国内での生薬調達を拡大するにあたっては、使用できる農薬の拡大や、機械化については業界で協力体制をつくり共同開発できればなどの意見が出された一方で、価格や会員会社ごとに求める生薬の品質が異なることなどが、拡大にあたっての課題として共有された。

薬産協では、「漢方の将来ビジョン2040」の実現を目指し、今年度も農林水産省の補助事業を活用した生産拡大に向けた施策を充実させていく予定である。